

■ニュース・情報提供
098-865-5158
■広告のお申し込み
0120-43-5059
■購読・配達の問い合わせ
0120-39-5069
■本社事業案内
098-865-5256
■読者相談室
098-865-5656

琉球新報

THE RYUKYU SHIMPO

第38741号

発行所 琉球新報社 ©琉球新報社2016年
〒900-8525 那覇市天久905 電話:098-865-5111

2016年(平成28年)

11月25日 金曜日
[旧10月26日・大安]



①佐久本嗣男さん(左)と清水由佳さん(右)に日本一を報告し、笑顔を見せる新垣愛花さん＝那覇市の泊会館
②浦添高校空手道部で、佐久本嗣男さんの指導を受けていたころの與儀静江さん(與儀清美さん提供)



佐久本さん、孫弟子指導

障がい者空手全国一に輝いた 新垣 愛花さん(23)

偶然ではない師弟の不思議な縁が空手全国一を引き寄せた。那覇市の菓子製造工場で働きながら、空手に取り組んできたろう者の新垣愛花さん(23)が10月、第12回全日本障がい者空手道競技大会の身体障がい部門(聴覚障がい)の形・女子個人戦で初優勝した。「優勝しましたよ」。今年3月に他界した師匠の與儀静江さん(享年40)に向け、空に向かってメダルを掲げた。11月2日、與儀さん亡き後、新たな師匠となった元世界王者で県体育協会副会長の佐久本嗣男さん(68)にメダルと賞状を見せて優勝を報告した。「天国の静江から『愛花をよろしく』とメッセージを送られた気がした」(37面に関連)

「よろしく」亡き教え子からバトン

儀さんは二十数年前、佐久本さんが浦添高校空手道部で直接指導したまな弟子だった。がんを患っていることを知らせず、亡くなる数カ月前まで與儀さんは新垣さんを指導した。與儀さんの突然の死を知り、意気消沈してしばらくは稽古に身が入らなかつたが、佐久本さんが手を差し伸べた。「日本一」になれたのは、本当に與儀先生や佐久本先生のおかげです。新垣さんは表情をほころばせた。同大会への挑戦は3回目。昨年は、練習不足で最下位に終わった。「先生方から習った通りやればできる」。新垣さんは自分に言い聞かせ、與儀さんと佐久本さん直伝の形・セーバイを披露。練習の成果が結果に結び付いた。與儀さんから習ったセーバイに、磨きかけたのは佐久本さん。與儀さんにとっても、佐久本さんから教わった得意な形だった。道場で佐久本さんと共に新垣さんを指導する清水由佳さん(34)は、耳の不自由な新垣さんのために佐久本さんの言葉をメモして見せるなどして、技術向上を支えた。清水さんは「(新垣さんは)聞こえなくても、体の全ての感覚を研ぎ澄まし技術を吸収している」と評価した。(半額わかな)

師弟の絆 頂点導く